

globalforce.link 通信 [2015.9.28.]

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

グローバルフォース・ドット・リンク通信

(第 0001 号)

【発行日】2015.9.28

globalforce(高度外国人)に関連する人財活用のエッセンス、採用、教育
本音トーク、法令関連にいたるまで、さまざまな情報を発信します。

異文化コミュニケーション研究所(R)さま、お元気様でございます。

突然のメール失礼いたします。異文化コミュニケーション研究所(R)の島崎です。

ある方から、「あなたの知っていることを、世の中の人たちが同じように知っているとは限らないのだから、情報発信をしないと理解してもらえませんよ。」

とアドバイスをいただきました。まさに、そのとおりです！ (^_^)

これから毎週、globalforce(高度外国人)に関連する情報を配信をしてまいります。

ぜひご活用下さい、よろしくお願いします。

■トピックス■

1. 今週のフォーカス「多様性は『玉手箱』を開く鍵」
2. 勉強会・セミナー等のご案内
3. 摩訶珍(まかちん)編集後記

11

| 1 | 今週のフォーカス「多様性は『玉手箱』を開く鍵」

U

多様性(diversity)が、ビジネス用語として使われはじめた頃は、社会的弱者

(マイノリティ)の雇用拡大という、かなり政治的な意図がありました。

今では人種や性別からはじまり、年齢、性格、学歴、価値観にいたるまで多様

な「アイデンティティ」を広く受け入れる『社会の価値観』に変わりつつあり

ます。でも、そこには「受け入れる」という言葉が示すように、秩序だった

「既存の組織」が「部外者」を受け入れるという側面もあるように感じます。

それではビジネスにおいて、なぜその秩序を壊してまで「多様性」を意識する

必要が出てきたのか。それは組織やマーケットが徐々に【硬直化】していく

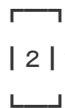
ことへの本能的な「焦り」によるものかもしれません。

優秀な人財の発掘、斬新なアイデアの喚起、新たなマーケットの創出を「多様性」から引き出せることを、本能的に私たちは知っているからです。まさに正しい選択肢です。

ただここでのポイントは、「既存の組織」が受け入れる側だということです。既に出来上がっている秩序だった社会に「多様なもの」を受け入れるということは楽ではありません。でも、それは「楽しい」チャレンジでもあります。新しいことには「とまどい」があります。でも今まで気づかなかったことに気が付き、常識が常識でなくなる。そこには自然にイノベーションが生まれてくるものです。ワクワクしませんか？玉手箱を開けるようなものです。

今まで日本人しかいなかった超ドメスティックな【日本企業】が、これから、世界中から優秀な globalforce(高度外国人)を受け入れ、イノベーションを起していく時代がやってきます。「内向き、下向き、後ろ向き」をやめて、この日本を世界の『NIPPON』にしていきましょう！

ただ、その玉手箱を開ける『多様性』という鍵を使うには、ちょっとした「準備」と「コツ」が必要です。この「globalforce.link 通信」でそれを少しずつひも解いてまいります。ぜひ、みなさまの会社でもイノベーションを起していきましょう。



Ⅱ 勉強会・セミナー等のご案内 [事前申し込み要]

(1) Active Inspire Seminort・globalforce circle 勉強会 第1回テーマ 『globalforce とキャリアパスについて』

日時:平成 27 年 10 月 22 日(木) 14:00-16:00

場所 : 星陵会館 3A

東京都千代田区永田町2丁目16-2

<http://www.seiryokai.org/kaikan/map.html>

[詳細: http://globalforce.link/?page_id=1149]

世界中にいる優秀な人財を活用することが、日本企業にとっても命題になっています。ところが、海外からの留学生のような globalforce(高度外国人)に関する教育・活用のノウハウを日本企業のほとんどが持っていません。そのため、せっかく採用しても globalforce にとっても、企業にとっても残念な結果になってしまうことがあります。

この勉強会は、globalforce を活用する企業の経営者ならびに人事・採用・教育部門の皆様方と共に、今あるさまざまな課題を、未来への礎に変えて

「」「」「」異文化コミュニケーション研究所(R) (iCCC)

「」「」 <http://www.globalforce.link>

「」 横浜市神奈川区青木町 3-15 SSビル 201 号室

「」 Tel:045-307-8248(代) FAX:045-461-1577

「」 代表取締役社長 所長 島崎ふみひこ

(当研究所は、株式会社フィギュアネットの事業部です。)